

2019年 秋  
 (通巻79号)

# ちばケアマネ通信

2019年11月発行

URL <https://www.chiba-cmc.com/>

このたびの被害にあわれた方々へ心よりお見舞い申し上げます。

千葉県に立て続けに被害をもたらした台風15号及び19号。そして更なる豪雨。安定しない天候が各地の復旧を長引かせ、未だにその被害は続いております。残念ながら県内でも多くの方が被害にあわれ、お亡くなりになられた方もおります。今もご不便な生活を強いられている方、それぞれ被災された地域で様々なご対応に追われている介護支援専門員をはじめ、関係機関の皆様の一日も早い復興を祈っております。

千葉県介護支援専門員協議会 理事長 林 房吉

## 千葉県介護支援専門員協議会 災害対策委員会報告

### ●台風15号 ー大規模停電の長期化ー

令和元年9月9日に千葉県付近に上陸し、関東地方に大きな被害をもたらした台風15号。最大瞬間風速が57.5m/sを記録し、鉄塔の倒壊(君津市)、ゴルフ練習場のポール倒壊による民家被害(市原市)をはじめ、県内では大規模な停電、断水に加え、多くの家屋等の損壊が発生しました。倒木等が復旧作業を阻み、予定より停電が大幅に長引き被害を拡大させました。残暑が厳しい中での長引く停電では、熱中症により、亡くなられた方も出ました。台風15号では「災害救助法」の適用、「激甚災害」の指定がされました。

### ●台風19号 ー命を守るための行動をー

東北・甲信・関東地域に大きな被害をもたらした台風19号。接近前からその勢力の強さから「スーパー台風」「史上最強クラス」と言われ、「命を守るための行動」「最大級の備え」をするよう連日のように報道がありました。県内では10月12日に暴風雨のピークを迎え、15号被害からようやく停電が復旧した地域も再び停電になったり、19号によってあらたな被害が発生した地域もありました。

各自治体から「レベル4」が頻りにアナウンスされました



### ●台風21号と低気圧による大雨

ー観測史上1位の雨量地域もー

2つの台風被害が残る中、10月25日には関東や東北にかけ記録的な大雨が発生しました。特に市原市、鴨川市、佐倉市などでは月の平均雨量をわずか半日で上回るほどでした。河川の氾濫や浸水、道路の冠水など甚大な被害が出ております。

### ●長引く停電・断水・暴風等による建物損壊(浸水)・土砂災害・大雨・河川氾濫・道路冠水など

非常に多くの被害が短期間で発生し、被害地域では「普通の生活」ができない日々が続いております。中でも「停電」被害への対策は今後の課題となりました。連絡手段が遮断されたため、情報収集・発信ができず、内からも外からも「SOS」が届きません。情報不足は不安につながります。介護支援専門員が訪問し、安否確認とあわせ必要な情報(近隣の被害状況、様々な物資場所、避難情報等)をお伝えしていたと聞いています。給油ポンプが使用できずガソリンスタンドが閉鎖になり、訪問を行いたくても移動手段が限られる状況でした。家屋の損壊も多く、ブルーシートの不足、加えて補修業者の手が回らず、住民自らが作業し転落事故につながる事態が急増しました。

### ●当会の対応…災害対策本部の設置ー県内の実態把握ー

台風15号の被害対応のため「災害対策本部」を設置。各地域の介護支援専門員協議会事務局に被害状況の報告をお願いしました。もちろん通信が遮断されている地域とは連絡が取れません。しかしながら、県内全域の情報を被害の大小に限らず把握することが重要なため、お忙しい中ではありますが皆様に依頼をさせていただきました。寄せられた情報は、迅速に日本介護支援専門員協会を通じ厚生労働省へ報告しました。適切な支援を考えた際、まずは、情報の把握が最優先です。

その点からも日本介護支援専門員協会が作成した「災害初期の情報報告シート」も、可能な範囲で記載し報告をする「スピード」が優先されるべきと思います。

### \*災害ボランティアとして 介護支援専門員を派遣\*

鴨川市及び南房総市から要請があり当会から鴨川市へ2名(9/16)、南房総市へ33名(9/21~23)を派遣しました。主な活動は、長引く停電等の被害による安否確認、状態把握のための「戸別訪問」です。介護支援専門員が訪問することで「気になる」高齢者には速やかに行政へ申し送りができ、必要な機関につなが事ができました。

E-mail :		
←災害初期の情報報告シート→		
報告者氏名	報告対象地域	
報告者所属	報告者名	
情報提供日時	平成 年 月 日 ( ) 時 分 現在	
①災害の内容	地域 / 津波 / 風災 / 洪水 / ガソリン不足 / 大雪 / 豪雨 / 地震 台風 / 断水 / 停電 / その他 ( )	
②介護支援専門員の被災状況	全体の人数(半実働に記入) 安否確認済み 確認中 名 名 名	
③災害ボランティア活動の被災状況	1. 支援なし 2. 支援あり (内容: ) 被災状況の状況等:	
④災害被害者の被災状況		
1. 業務進行上、活動範囲内のライフラインの支障の有無	支援がある場合(具体的に)	
2. 地域の高齢者で安否確認が取れない方の有無	支援がある場合(具体的に)	
3. 地域包括支援センターの被害状況(機能しているか)	支援がある場合(具体的に)	
4. 居宅介護支援事業所やその他の施設等の被害状況(機能しているか)	支援がある場合(具体的に)	
⑤被害者の状況について(被害者で対応している人数を記入)	(1)未設置 (2)設置済み(一般避難所・福祉避難所) / (3)調査中	
設置箇所数	避難者数	避難者数のうち要保護者数
一般避難所	箇所	名
福祉避難所	箇所	名
TEL:	FAX:	
番号:	番号:	

災害初期の情報報告シート



南房総市での活動:  
 9月21日~23日の3日間  
 で計33名を派遣  
 148件の戸別訪問を実施

お忙しい中ご協力いただいた皆様にはこの場をお借りしまして心からお礼を申し上げます。

### ●中止された介護支援専門員受講試験

台風の影響により、10月13日に予定していた第22回介護支援専門員実務研修受講試験は千葉県をはじめ、1都12県が中止となりました。千葉県庁ホームページには、今後の予定については「検討中」となっており「決定後申込者あてに通知します」となっています。(10/31現在)

### ●最後に…地域協議会事務局及び介護支援専門員の皆様へ

日々お忙しい中、続けざまに発生する台風・大雨対応に追われ大変だと思います。そのような中、当協議会に随時報告を下さり心からお礼を申し上げます。

報告には、「目の前の命」を守るため行動を起こしている介護支援専門員の様子が非常に多く報告されております。

さらに、立て続けに起こった災害から学び、事前に関係機関と連携し、減災に努められた取組みも多くありました。

皆様のご対応につきまして心から感謝申し上げます。

ちなみに…

- ・『月刊ケアマネジャー』11月号(中央法規)に、今回の台風15号被害(館山市)の記事が掲載されております。ご協力いただいた館山市の協議会の皆様、本当にありがとうございました。
- ・当会災害対策委員会では、研修会に講師を派遣することも行っております。今年は5地域にお邪魔します。
- ・日本介護支援専門員協会から台風15号被害により家屋が損壊した方へ「会費免除」の通知が発出されました。詳細は当会ホームページでご確認ください。

この記事を書いているのは11月1日です。15号から約2ヶ月、19号から約1ヶ月、大雨からは1週間が経ちます。今回の災害では、関係機関と連携をとり、利用者も含め高齢者を支える介護支援専門員の活動が数多く報告されました。高齢者にとって介護保険制度の利用は、

関係機関、サービス等と「つながる」ことでもあり、この「つながり」が災害時の「減災」につながっているという声も聞かれました。今後も起こりうる災害に備え、当会としましても様々な知恵を絞り、会員をはじめ皆様から多くのご意見をいただきながら、今後の災害時支援を考え活動していきたいと思っております。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

ご協力いただいた皆様  
ありがとうございました!

当会研修会場に設置した義援金箱▶



## 一般社団法人日本介護支援専門員協会 全国大会in四国 開催

事務局長 船津 良

皆さんは、介護支援専門員が一堂に集う「全国大会」があるのをご存知ですか？ 日本介護支援専門員協会が主催となり、年に1回実施しています。今年は初の四国（四国四県での合同）開催。参加した模様をお伝えします！

令和元年8月31日～9月1日の2日間において「第13回全国大会in四国」が徳島県(徳島市：あわぎんホール)で開催されました。初日は曇り空でしたが2日目は晴天の中、1,000名を超える多くの方が全国から集まりました。



### 基調講演

厚生労働省老健局長 大島一博 氏

#### 「介護保険と地域づくり」

次年度で介護保険制度は「20年(二十歳)」を迎えます。そのことを踏まえ、制度創設前から現在までを丁寧に振り返り、これから期待される「地域づくり戦略」について、各地域で現在行なわれている多くの取組事例をご紹介いただきました。

当日ご紹介された冊子は厚生労働省ホームページから閲覧・ダウンロード可能  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000192992.html>

### 記念講演

日本医師会常任理事 江澤和彦 氏

#### 「地域包括ケアシステムの構築について」

##### ～高齢者の尊厳の保持と自立支援を考える～

資料によると、1872年(明治5年)に3,481万人であった日本の人口は、その後急速に伸び、2010年(平成22年)には1億2,806万人となるが、今後の人口減少により2100年には5,000万人を切ると予想されています。つまり、150年程で人口が急速に伸び1億人を突破したものの、今後100年かけ明治時代の人口に戻るようになります。「地域社会」の担い手が不足していく中、今後の「地域包括ケアシステム」はどうあるべきか。高齢者だけでなく、全世代を視野に入れた施策・取組が求められます。江澤氏自身、医療法人の理事長である立場から、多くの取組みや活動、体験談を交えお話いただきました。今後の病院や施設等は、今の機能、役割に加え「地域とどう繋がっていくべきか」を投げかけられた内容でした。「普通の生活の実現(=尊厳の保障)を実行することが我々の役割」という言葉がとても印象的でした。

### シンポジウム

#### 「新時代の介護支援専門員のあり方を自ら問う」

##### ～介護支援専門員の未来像～

四国四県からそれぞれ登壇し、様々な立場での報告がありました。地域の特性、資源、課題等が異なる県同士での意見交換、それを参加

者が各々の立場でイメージしながら聞く。まさに全国大会の醍醐味です。最後に介護支援専門員の未来像として、個々の活動にとどまらず今後は「職能団体としての組織活動」の促進、重要性があげられました。

### 分科会

#### 5分科会に分かれ研究事例発表(全28題)

会場ごとに同時進行で行われましたが、各会場とも適切な時間管理がなされ、参加者は会場を「はしご」することができ、自身の興味がある発表を聞くことができたと思います。加えて別会場では、ポスターセッション(全12題)もあり大変ボリュームがある内容でした。

千葉県からは井上創(当会副理事長)が発表



「地域共生社会実現を目指した取り組み～地域交流スペース Mado-Kaの実践報告」

### 教育講演

産業医科大学 医学部公衆衛生学 教授 松田晋哉 氏

#### 「医療と介護の融合の必要性や地域包括ケアデザインについて」

徳島市を切り口とし、多くの統計データをもとに、今後人口構造の地域差が拡大する中、地域ごとに医療介護のあり方を考えざるを得なくなる「地域におけるケアミックス化が不可欠」となることが予想され、根底として地域包括ケアは箱モノでなく「機能(Commissioning)」であり、それを担う人材の養成・育成・配置が重要と話されました。加えて「生活することそのものがリハビリテーションになる街づくり」に向け、住民みんなで「知恵」を出し合うことの必要性(新しい参加型民主主義の必要性)について話されました。

### 最後に…次年度開催地

今回は、栃木県で開催です。全国大会は、最新情報はもちろん、普段交わることのない仲間から様々な刺激をもらえる場でもあります。ご都合がつく方はぜひ参加してみましよう！

第14回 一般社団法人日本介護支援専門員協会  
2020 全国大会 in とちぎ(北関東3県合同開催)

「のびる技・むすぶ想い・ひらく明日」

～二十歳の介護保険 支え合うことの価値を問い直そう～

日程：2020年10月10日(土)・11日(日)

会場：栃木県宇都宮市

9 開催スケジュール

1日目 2019年8月31日(土)

11:00	受付開始
12:00	開会セレモニー 開会式 開会宣言 主催者挨拶 日本介護支援専門員協会会長、徳島県介護支援専門員協会理事長 来賓祝辞(予定) 厚生労働省、徳島県知事、徳島県医師会会長
13:15	基調講演 講師：厚生労働省老健局長 大島 一博 氏
14:15	休憩・展示物閲覧
14:30	記念講演 講師：日本医師会 常任理事 江澤 和彦 氏
15:30	日本介護支援専門員協会 活動報告 日本介護支援専門員協会 会長 ケアマネ川柳表彰式
16:15	休憩・展示物閲覧
16:30	シンポジウム 新時代のケアマネのあり方を自ら問う ～ケアマネの未来像～ シンポジスト 在宅介護支援事業所(香川)：長田志保 (一社在宅介護ネットワークケアアレンジャー) 小規模多機能型事業所(高知)：山本 星 (小規模多機能型居宅介護施設あるて) 地域包括支援センター(愛媛)：宮地 亨 (松山市地域包括支援センター西) グループホーム(徳島)：寒川初枝 (グループホームやまもも) 助言者 厚生労働省老健局長 大島 一博 氏 座長 日本慢性期医療協会会長 武久 洋三 氏
17:50	1日目終了
19:00	懇親会(受付開始 18:30～)
21:00	終了

2日目 2019年9月1日(日)

9:00	受付開始
9:30	分科会 第1分科会 在宅医療に伴う自己決定・意思決定支援を考える 第2分科会 高齢社会における様々な場面での地域連携の方法や役割を考える 第3分科会 当たり前の生活を保障する認知症ケアマネジメントを考える 第4分科会 尊厳を守るための介護支援専門員の役割を考える 第5分科会 介護支援専門員の専門性を生かす施設ケアマネジメントを考える
11:00	休憩・展示物閲覧・移動
11:20	教育講演 講師：産業医科大学 医学部公衆衛生学教授 松田 晋哉 氏
12:20	閉会式・次年度開催地挨拶
12:30	大会終了

会場：あわぎんホール  
なんと当日は改装中!!



当会監修スマートダイアリー  
2020 が初お目見え!



分科会の様子



メイン会場の様子



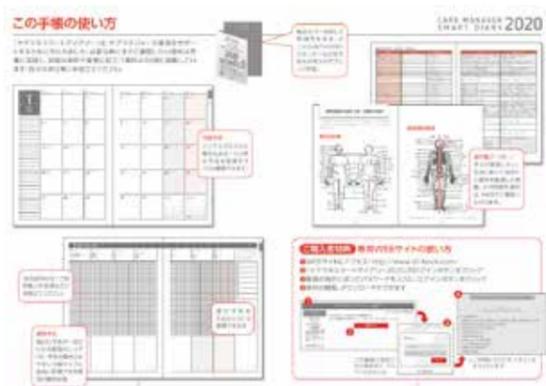
大会には多くの出展業者も参加



## ケアマネスマートダイアリー2020 発行

会員には **1冊** プレゼント! (9月送付済み)  
WEB も是非使って下さい!  
<http://www.d1-book.com/>

特定非営利活動法人  
千葉県介護支援専門員協議会  
監修



- 薄くて軽い! 持ち運びの負担を軽減!
- 訪問先でいざという時に使える資料を厳選収録!
- 書き込みやすいレイアウトでたくさん書けるスケジュールメモ!
- 専用WEBサイトに、ダウンロード可能な役立つ資料を多数収録!
- 巻末に切り取りもできるミシン目入りのメモを追加!

**当会独自研修会で販売中!!**

## 被災地報告

広報委員会 副委員長 佐久間 絵美

この度の台風15号の被害状況、皆様の地域ではいかがだったでしょうか?

私の事業所のある市原市では、風害や水害はさることながら、停電と断水による二次的被害が多くみられました。市原市は県内でも面積が広く南北に長い市でもあります。市の北西部となるJR沿線や工場地帯側では、停電の被害も少なかったように思います。しかし、南部では倒木や家屋の倒壊などが多くみられ、電線を絡んで倒壊しているような場面も多々見受けられました。さらに南部地域では、年々高齢化率が増加しており現在は40%といわれています。そんな中での、長期間の停電、断水で、高齢者世帯には情報が行き届かない、いつ復旧するかわからない不安、物資の供給がうけられてもそこに取りに行く足がないなどの状況を目の当たりにしました。

今回、事業所の介護支援専門員や近隣の事業所では、介護支援専門員による安否確認と情報の伝達、冷凍したペットボトルや水の配布、電気が使用できる事業所の開放などを行いました。停電や断水は、2・3日で復旧するところもあれば、丸一週間続いたところもありました。そんな中で、日に日に変化していくニーズに対応するべく、今、私たちがで

きることは何だろうと、常に考える日々でした。  
千葉県は今まで、大きな災害もなく過ごしやすい地域であっただけに、今回のような大きな災害のときにすぐに動けなかったふがいなさも感じました。

地域では、まだまだ完全復旧とはいきませんが、復興にむけて、今私たち介護支援専門員にできることを精一杯行っていきたいと思います。

『みんなで 支え合い がんばろう いちはら』(広報いちはら号外より)



# 千葉県庁だより 県からのお知らせ

## 外国人介護人材に関する情報

千葉県健康福祉部高齢者福祉課です。9月と10月に千葉県や全国に大きな被害をもたらした台風15号と19号の対応については、千葉県介護支援専門員協議会の会員の皆様に要援護高齢者の安否確認等に御協力をいただき、誠にありがとうございました。

今回の「千葉県庁だより」では健康福祉指導課から、外国人介護人材に関する情報をお届けします。

千葉県では、2025年度には介護人材が約2万8千人不足すると見込まれています。県では平成20年9月に知事を本部長とする「千葉県福祉人材確保・定着対策本部」を設置し、介護分野への新規就業支援や、事業者と求職者のマッチング機能の強化、介護職員のキャリアアップ、職場環境の改善などの対策に取り組んできました。

今年度からは外国人介護人材の確保にも本格的に取り組むこととし、「千葉県留学生受入プログラム」を開始しました。このプログラムは、在留資格「介護」を取得し、介護福祉士として県内の介護施設で就労することを旨とする外国人留学生を支援するものです。

# みんなの介護 事務局です!! 79

## 2019年度専門研修課程Ⅱ・更新研修後期（第4期）開催について

2019年度専門研修課程Ⅱ・更新研修後期（第1期）（第2期）では、定員を大幅に上回る申込がありました。そのため、第3期（現在、開催中）さらには第4期を開催することになりました。開催日程は以下をご参照ください。

### ○専門研修課程Ⅱ・更新研修後期（4期） 定員：調整中

日程	研修日	科目	会場
1日目	2020年3/18(水)	介護保険制度及び地域包括ケアシステムの今後の展開事例研究とその進め方	TKP ガーデンシティ 千葉
2日目	4/18(土)	リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例	
3日目	4/19(日)	看取り等における看護サービスの活用に関する事例	
4日目	4/28(火)	認知症に関する事例	
5日目	4/29(水)	社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例	
6日目	5/13(水)	家族への支援の視点が必要な事例	
7日目	5/20(水)	入退院時等における医療との連携に関する事例	
8日目	5/23(土)	状態に応じた多様なサービス（地域密着型サービスや施設サービス等）の活用に関する事例 研修の振り返りとまとめ	
予備日	5/25(月)	—	

※申込開始は12月上旬を予定（当会ホームページに掲載）

## 当会『ちばケアマネ通信』 広告掲載料金

1ページ	20万円	1/4ページ	5万円
1/2ページ	10万円	下1/4段	3万円
1/3ページ	7万円	1/2ページ	3万円

※全てカラー広告

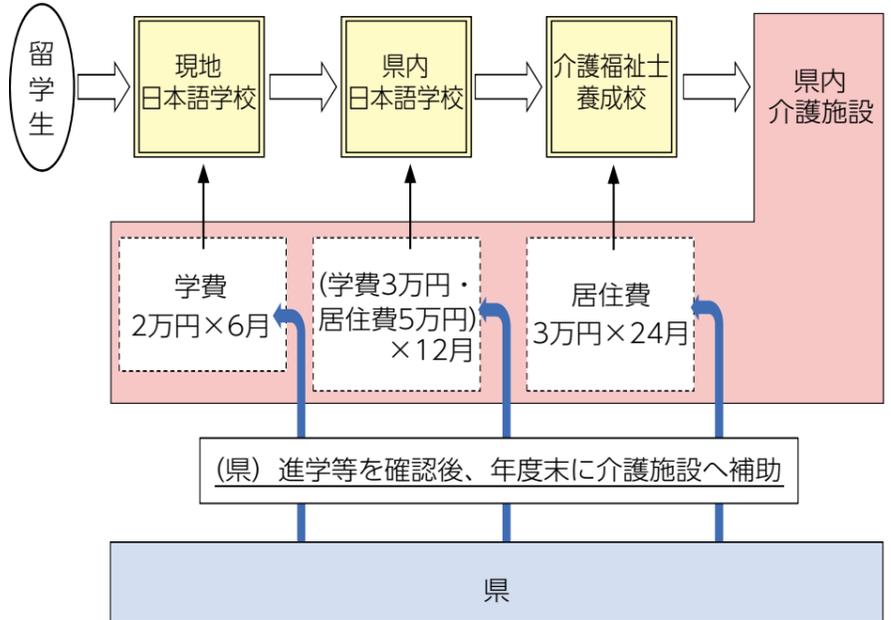
ご希望の方は、当会までご連絡ください

※広告内容については、審査がございます。

## 事業の内容

- ①マッチング支援…留学生（候補者）と現地日本語学校、県内日本語学校、介護福祉士養成施設、受入れ先となる介護施設のマッチングを行う。
- ②学費及び居住費の支援…留学生に対し、現地及び県内日本語学校、県内の介護福祉士養成施設に在学中の学費・居住費を支援する。

## 千葉県留学生受入プログラム（イメージ）



令和元年10月1日現在、プログラムへの参加を希望するベトナム人留学生候補者と受入れを希望する介護施設のマッチングが終了し、65名が来年4月の入国を目指して現地（ハノイ市内）日本語学校で学習を開始しています。

また、県では、県社会福祉協議会に委託し「千葉県外国人介護人材支援センター」を、7月にオープンしました。

現在は、すでに県内の介護施設等で働いている外国人介護職員や、介護分野への就業を目指す留学生、外国人を受入れたい施設からの相談に、日本語、英語、ベトナム語で対応するほか、外国人の受入れを検討している事業者向けの説明会、外国人介護職員等の交流会、メンタルヘルスに関するセミナー、外国人を受入れている施設向けの中堅管理者向け労務研修などを実施しています。

また、来年度からは、上記のプログラムで来日するベトナム人留学生のサポートも行う予定です。

## 千葉県外国人介護人材支援センター

電話（相談）043-205-4762  
（代表）043-205-4780



お問い合わせ：千葉県健康福祉部健康福祉指導課福祉人材確保対策室

☎ 043-223-2606



## 編集後記

台風と大雨により被災された皆様、ならびにそのご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

介護支援専門員の仕事は一人だけでできることではなく、関わっている事業所の方たちはもちろん、地域の方たちなど多くの方に支えられていることを再度、強く実感しております。広報誌も皆様のお役に立てるよう、情報発信していきたいと思っております。

広報委員会 委員長 前島 敦子